

次期尾道市総合計画 基本構想構成（案）

【1】尾道市総合計画について

1. 総合計画の策定趣旨
2. 次期総合計画策定に向けた考え方

【2】基本構想の構成について

1. めざすまちの姿の検討
2. めざすまちの姿
3. めざすまちの姿を実現するために大切な3つのC

【参考】次期総合計画の全体イメージ

【参考】基本計画における3つの視点について

【1】尾道市総合計画について

1. 総合計画の策定趣旨

本計画は、まちづくりを進めるための最も基本となる計画であり、本市の最上位計画です。

本市では、令和8年度を目標年次とする総合計画を平成28年度に策定し、「元気あふれ 人がつながり 安心して暮らせる～誇れるまち『尾道』～」を都市像として、各種の施策・事業を推進してきました。この間、人口減少や少子高齢化の進行、感染症拡大を契機とした行動変容、AI（人工知能）やデジタル技術の急速な進展等、本市を取り巻く状況は大きく変化してきました。

こうした中、社会変化に適応したまちづくりを進め、持続可能なまちづくりの方向を示す指針として、令和9年度から令和18年度を計画期間とする次期総合計画を策定します。（基本構想：10年、基本計画：前期5年・後期5年）

なお、本計画の策定にあたっては、予測が困難な変化の激しい時代にあっても変わらない将来像として「めざすまちの姿」を位置付け、その実現に向けて必要な施策や取組を見定め、実行していきます。

2. 次期総合計画策定に向けた考え方

（1）策定の基本となる考え方

①「尾道の強みを活かした持続可能なまちづくり」

人口減少や少子高齢化が進展する中、社会情勢の変化に対応したまちづくりに取り組みます。

②「実効性のある計画」

尾道市まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体化した計画の作成、市民参画による計画策定、個別計画との整合性を図った計画とします。

（2）完成イメージ

①市民の皆さんとともにめざすまちづくりの方向性が、体系的に整理された計画とします。

②総合計画と政策分野ごとの個別計画との関係性を明確に示すことにより、めざすまちづくりの方向について市民の皆さんや行政において広く共有できるよう、分かりやすい計画とします。

【2】基本構想の構成について

1. めざすまちの姿の検討

総合計画の策定にあたり、どんなまちなら住みたいと思うか、どんなまちになってほしいか、将来めざす尾道の姿を描くために、市民満足度調査や中高生世代アンケート、市民ワークショップ、庁内会議を実施し、幅広い年代、様々な立場の方から意見をいただきました。

この基本構想では、市民が描く10年後のまちの姿をもとに分野別に関連性を整理し、めざす姿を6つの柱として設定しました。さらに、市民と行政が一緒になって取り組んでいけるよう、みんなで共有する一つの将来像として「めざすまちの姿」を掲げました。

「市民が描く10年後のまちの姿」と「6つの柱」

- ◆みんなの支えがあるから、安心して子育てできる
- ◆のびのび育ち、尾道大好き子のニコニコでみんなも幸せ
- ◆やりたいことにチャレンジでき、生きがいを感じられる

➡ 学び・育つ

《参考》子育て×教育×生涯学習×スポーツ

- ◆自分らしく働くことができる産業が育ち、豊かな暮らしやまちの活気につながっている
- ◆生産者が自信をもってオススメする新鮮な地元食材と、尾道らしいホッとする味が身近にある
- ◆「尾道を丸ごと楽しみたい！」と国内外から人が訪れ、交流の輪が広がっている

➡ にぎわいの輪が広がる

《参考》産業×観光×交流

- ◆バスや船、いろんな乗り物が使いやすく、日々の暮らしで安心して移動できる
- ◆空き家のリノベーションが進み、まちの雰囲気も居心地も良くなっている
- ◆デジタル技術が便利で安全な暮らしに活かされている

➡ 快適にくらす

《参考》生活基盤×環境

- ◆人と人、人と地域でゆるやかなつながりがあるから、いざというときにも心強い
- ◆ワタシらしさ・アナタらしさが大切にされているから、みんなが輝ける
- ◆まちに魅力があるから住みたいし、新たな仲間も増えて地域が元気になっている

➡ 支え合いひびきあう

《参考》協働×人権×多文化共生×移住・定住

- ◆尾道を想う一人ひとりの気持ちや行動が広がり、めぐることで、まちの景観を輝かせている
- ◆都会過ぎず、田舎過ぎず、バランスのとれた「ちょうど良い」暮らしが続いている
- ◆歴史・文化が暮らしに溶け込み、祭りや伝統行事を楽しむことが誇りとなって引き継がれている

➡ 守り輝かせる

《参考》景観×歴史・文化・芸術

- ◆尾道暮らしはココロもカラダも元気になるし、医療や福祉の支えがあるから安心できる
- ◆自然災害や火事、もしもの時も安心できる備えが地域にも私たちにもちゃんとある
- ◆地域のつながりが日々の暮らしに安心を届けている

➡ 安全・安心がつづく

《参考》健康・医療・福祉×消防・防災×防犯×交通安全×行政経営

2. めざすまちの姿

つながり めぐる つづく 尾道

【つながり】

笑顔でつながり
学び・育つまち

【めぐる】

地域の魅力と活力が
めぐりにぎわうまち

【つづく】

“住みたい”がつづく
安全・安心で快適なまち

人と人、人と地域、暮らしと文化 ――― 尾道には、様々なつながりが重なり合っています。
市民同士や地域でのつながりを通じて支え合いや学び合う関係が広がり、一人ひとりがまちづくりに関わることで誇りや愛着へとつながります。さらに、人やモノ、想いがまちの中でめぐり、市外へと広がることで、来訪者や新たな仲間を引き寄せ、活力とにぎわいをもたらしていく。
こうして生まれ、積み重ねてきた魅力を、景観や歴史・文化と共に次世代へ継承しながら、ここで暮らすすべての人にとって、将来にわたり安心が日常となる持続可能なまちをめざします。

3. めざすまちの姿を実現するために大切な3つのC

めざすまちの姿の実現に向けて、市民と行政が一緒になって取り組んでいくうえで大切にしたいこととして、次の3つのCを設定しました。

大切な3つのC

Change ～関わりの中で変化する～

一人ひとりがそれぞれの役割を担い、変化を恐れず新たな時代に適応しながら、協力して地域課題の解決へとつなげていきます。

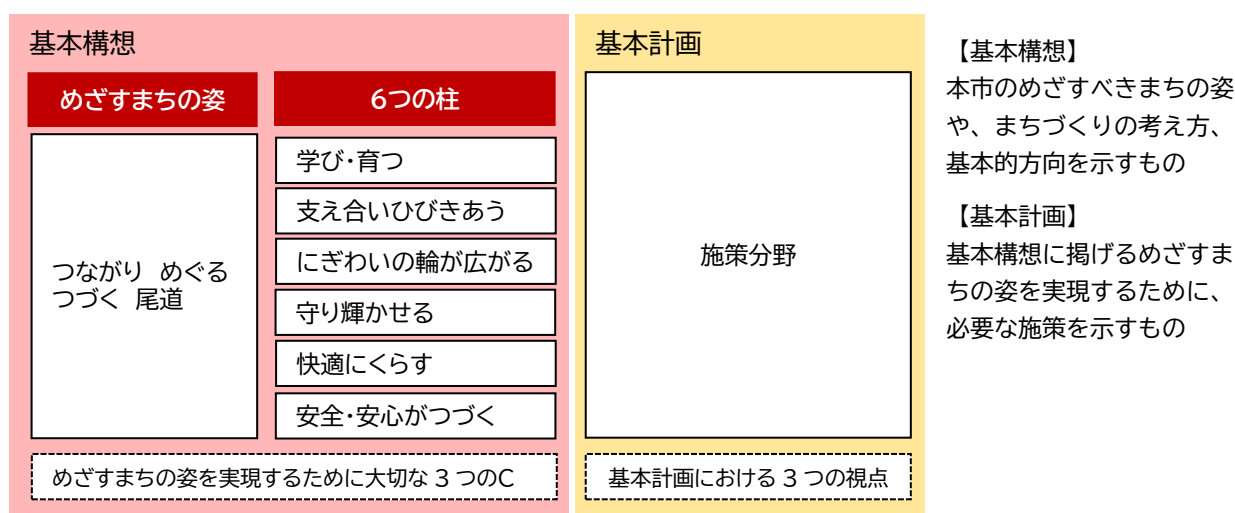
Challenge ～やってみようを応援する～

古き良き文化と新たな挑戦が調和する中で、一人ひとりのやってみようを尊重し、相互に応援し、支え合いながら一歩が踏み出せる環境を整えていきます。

Choice ～このまちを選び共に暮らす～

いま暮らす人が「住み続けたい」、訪れる人・関わる人が「住みたい・また来たい」と思い、選ばれ続けるまちをつくっていきます。

【参考】次期総合計画の全体イメージ



【参考】基本計画における3つの視点について

基本計画においては、「めざすまちの姿を実現するために大切な3つのC」を踏まえ、行政において次の3つの視点により施策に取り組みます。また、次期総合計画では、実効性のある計画とするため、総合戦略を総合計画の中に位置づけて一体的に推進することとし、地域の魅力を高め、人口減少に適応した地域づくりに分野横断的に取り組んでいきます。

【3つの視点】

多様な人材が育ち活躍する《ひとづくり》

子育てや教育、生涯学習を通じた多様な人材の育成と、誰もが自分らしく活躍できる環境をつくります。

日常に活気と可能性がある《しごとづくり》

地域資源を活かし、多様な主体と連携した産業や就業機会の創出とともに、安定した雇用の確保と地域経済の持続的発展により、産業の活力と交流を生み出します。

安全・安心・快適に暮らせる《まちづくり》

安全・安心に暮らすための都市機能を充実させるとともに、地域資源や景観を活かした魅力ある環境を整えます。

(参考)体系図イメージ

